

「八色の森の子ども絵画展2017」作品募集

- ◆**展覧会名** 八色の森の子ども絵画展2017
(八色の森の美術展2017との同時開催)
- ◆**主催** 八色の森の美術展実行委員会(事務局:池田記念美術館)
- ◆**後援** 南魚沼市教育委員会など
- ◆**会場** 池田記念美術館
- ◆**会期** 2017年10月8日(日)~11月21日(火)
- ◆**募集対象** 小学校・特別支援学校小学部在籍の子どもたち
- ◆**募集作品(テーマ)** **「抽象絵画に挑戦しよう！」**
あなたが今まで描いたことのない、あなただけの絵

◆募集にあたって

2017年秋、池田記念美術館では、抽象絵画を中心に約30人の作家を招いて、「八色の森の美術展2017」を開催し、同時に「八色の森の子ども絵画展2017」を併催します。全国各地から参加する作家が独自の文化と風土が息づく魚沼との出逢いに触発されて制作した作品と、公募した子どもたちの入選作品を美術館の壁面に対等に展示する画期的な展覧会となります。ぜひとも門出を祝うにふさわしい意欲的な作品を子どもたちから応募していただきたく、学校関係者・保護者の皆様のご尽力を心よりお願い申し上げます。なお、「八色の森の美術展」と「八色の森の子ども絵画展」は、次年度以降も継続して開催する予定です。子どもから大人まで地域一体となって、八色の森から芸術のうねりを世界に向けて発信しましょう。

◆募集作品のテーマ

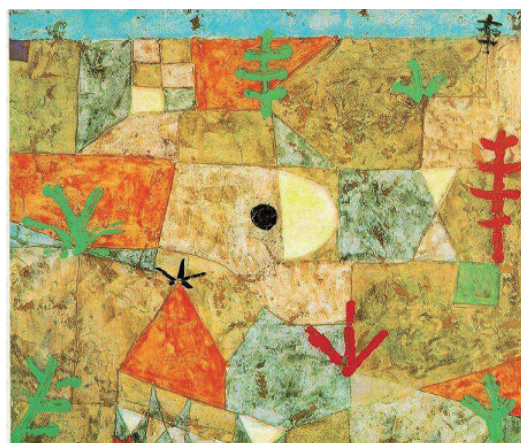
「抽象絵画」と聞いて、いったい何を描けばよいのか困惑される先生や保護者の方も多いと思います。しかし、子どもたちのほうがむしろ楽しく、抵抗なく表現できるかもしれません。

事実、図画工作科学学習指導要領には、作品にならなくてもよい「造形遊び」が基本的な内容に位置づけられています。さらに、図画工作科で必要となる資質や能力を「共通事項」として示していますが、「自分の感覚や活動を通して形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これを基に自分のイメージをもつこと」とあります。

つまり、イメージ(意味)を決めてから造形活動をするというよりは、さまざまな材料に感覚と身体を働かせて楽しむなかで、どんどんイメージが生まれ、つくりながら、かつ、つくりかえていくような造形活動をうながしています。抽象絵画は、大人が考えるより子どもたちのほうが当たり前に行っているのかもしれない。

もちろん、イメージが変化しながら次々と色や形が生まれるなかで、具体的な形象や物語が出てきてもかまいません。地域の風景や伝承に身体感覚が造形的に共振すれば、おのずとイメージが生まれるでしょう。この子ども絵画展では、抽象絵画を広くとらえたいと思います。結果的に抽象絵画にならなくとも、造形活動を通してイメージが変化し、子どもたちの創造力が思う存分に発揮されるような作品であれば、広く歓迎します。「造形遊び」から出発するのでは評価が難しいと思われる方は、「八色の森の美術展」に出品する作家たちとともに、子どもたちの作品を学び合いたいと考えています。

現在の社会は、膨大な意味と情報に身動きが取れなくなっています。子どもに限らず、自らの力で意味や形をつくり出す喜びが、今ほど求められている時代はないと思われます。「八色の森の子ども絵画展2017」は、地域の方々とともに、絵画を通じて創造性について改めて考えてみるような場にしたいと思います。



パウル・クレー



こども美術教室がじゅく◎三鷹スタジオ
中島さや



カンディンスキー

◆子どもたち対象の抽象絵画教室◆

「八色の森の美術展2017」出品作家による絵画教室を開催します。抽象絵画って何か、どんな技法があるのかなど、実際に作品をつくりながら、講師の作家たちといっしょに基本から勉強しましょう。池田記念美術館での開催のほか、希望があれば、学校や公民館などへも出張します。子ども絵画展応募切の8月25日までに何回か企画します。日時など詳細は決まり次第、お知らせしますので、お待ちください。